看　護　研　究

部　会　長
徳島大学医学部
松　家　　豊

筋ジ病棟開設10年を経た今日、筋ジ看護の研究は現場の実践を通して更に求められる多くの課題がある。また、これら研究の成果は今後の看護向上に大きな役割を為している。一方、施設内及び施設相互間の連携、研究の現場への即時還元がみられている。

本年度の最大の成果は共同研究による「看護基準」の完成である。更にもう一つの共同研究は「入浴看護」であるが来年度に引きつづくことになっている。一般応募研究課題は34題にのぼり、以下その研究計画にもとづいた成果の概要を述べる。

1. 基本的看護の研究ではとくに精神的看護の重要性が強調された。この心理的看護は身体的要素とからみ患者の最も重要な年代である思春期とか車いす移行期などにおいて注目しなければならないことを指摘し、その観察と対応が為された（再春荘、西多賀）。　看護計画の一助となるものである。なお、看護記録についての検討もＰＯＳ、チャート式、カーデックスなどそれぞれの活用法が行われているが看護向上に役立てるため生きた看護記録づくりが期待される。（八雲、南九州、西奈良）
2. 臨床的看護に関しては、重症者への集中看護の要点として頻脈、腹部症状、痰の増加の三大主徴候をあげその対処を強調した（西別府）。　これら症状の医学的病態の解明と適切な処置の確立がのぞまれる。合併症については、上気道感染に対して肺機能訓練の必要性（宇多野）、変形予防のための日常姿勢からみた介護（徳島）、ボディメカニクスの介助法への応用（刀根山）などの検索が行われた。何れも重症者看護に対するアプローチは今後とも重要な課題であることを示唆している。
3. 看護機器についての研究では多くの成果があげられている。ともに労力の軽減、安全なケア、ＡＤＬの自立という目標に創意が傾注されている。安全ベルト、抑制帯、保護帽、はき物、衣服、車いす補助具、ベット関係、食事関係、排便関係など多岐にわたっている。何れも現実に則したもので綿密な患者の観察にもとづいた創意工夫の結果がうかがわれる。また、これら日常看護、療育に関連した機械や用具、用品などの研究テーマをとりあげること自体が患者との日常コミュニケーションにおいて大きな意義のあることであろう。（宇多野、東埼玉、原、刀根山、徳島、西多賀、兵庫、西奈良）
4. 看護管理面ではとくに成人の生活指導が当面の関心事で、その運営に今後の期待がよせられる。院内、外での活動に種々の問題のあることが注目される　（下志津、再春荘）。在宅ケア、短期入院への積極的な試みは今後の全施設に共通した課題でありパイロットスタディとしての意味で大きな期待がよせられる（刀根山）。　患者のタ　ムスタディを通して生活時間とくに自由時間

の有意義な活用をはかることは今後の充実した看護への布石ともなるものである（徳島）。

今年度の研究は、共同研究に幾分主体がおかれたので施設相互間の交流が充分行われた。今後の研究発展に有意義と考えられる。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

筋ジ病棟開設 10 年を経た今日、筋ジ看護の研究は現場の実践を通して更に求められる多くの課題がある。また、これら研究の成果は今後の看護向上に大きな役割を為している。一方、施設内及び施設相互間の連携、研究の現場への即時還元がみられている。